

【技術の名称】 大林組ヒンジリロケーション梁工法 ー材端貫通孔を可能とするヒンジリロケーション RC造梁ー	性能証明番号：GBRC 性能証明 第16-30号 性能証明発効日：2017年3月15日 【取得者】 株式会社大林組
--	--

【技術の概要】

本技術は、鉄筋コンクリート造梁に材端部曲げ補強筋を配置することで塑性ヒンジ発生位置を材端位置から材端部曲げ補強筋先端位置に移動させる工法であり、材端部に従来の補強筋を省略した貫通孔を設けることができる。

【技術開発の趣旨】

一般の鉄筋コンクリート梁は大地震時には材端位置に塑性ヒンジを生じることを許容している。このため近傍の柱・梁接合部には大きな応力が生じて構造性能を劣化させている。また塑性ヒンジ位置には貫通孔は設けられないため、スパン中央部範囲に貫通孔を設ける必要がある。本技術は塑性ヒンジ発生位置をスパン中央方向に移動させることで柱・梁接合部の応力を緩和することができるとともに、材端部に貫通孔を設けることができ設計の自由度を高めることができる。

【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。

申込者が提案する「大林組ヒンジリロケーション梁工法 設計・施工指針」に従って設計・施工された鉄筋コンクリート造梁は、長期荷重時の使用性、短期荷重時に修復性を損なうひび割れを起こさず、同指針で定める終局耐力および変形性能を有する。

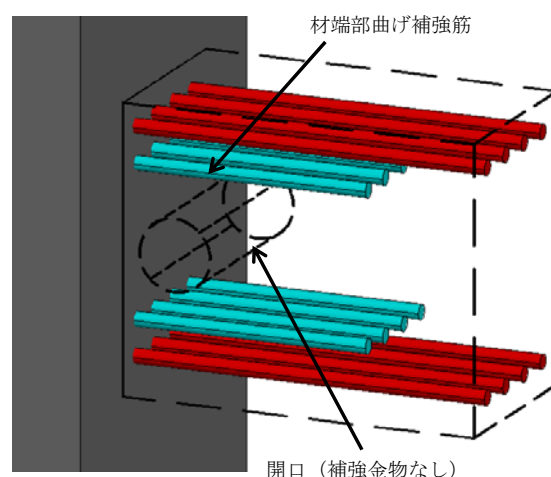


図1 本工法のディテール

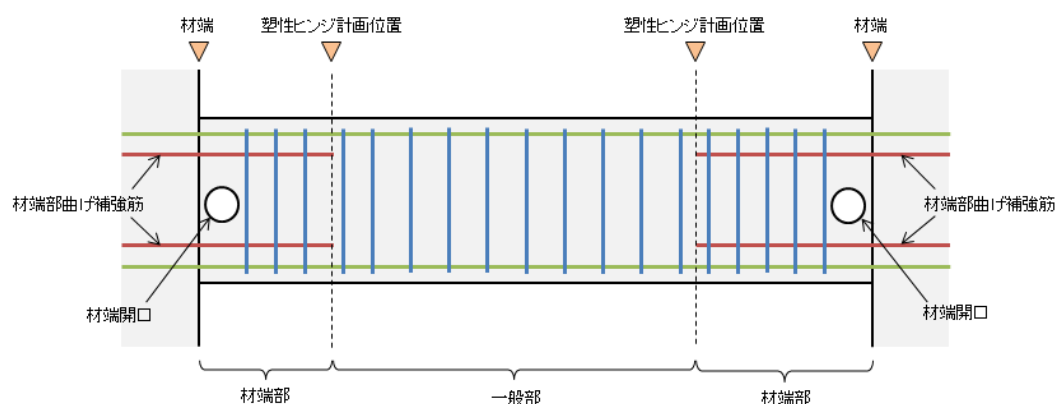


図2 本工法を適用した梁の模式図

【本技術の問合せ先】

株式会社大林組 担当者：米澤健次
〒204-8558 東京都清瀬市下清戸 4-640

E-mail：yonezawa.kenji@obayashi.co.jp

TEL：042-495-1092

FAX：042-495-0904